

## トカラ列島の火山の噴煙史 - 国絵図を利用した噴煙史の構築 -

## Volcanic clouds and fumarolic activities records of Tokara Islands, based on Kuniezu in Edo Period.

# 及川 輝樹 [1]; 中野 俊 [2]

# Teruki Oikawa[1]; Shun Nakano[2]

[1] 産総研・地質情報; [2] 産総研

[1] AIST, GSJ; [2] GSJ, AIST

古地図は噴煙活動史の構築に有力な情報を与える。古地図の一つである国絵図は、江戸時代に幕府勅撰で編纂された地図であり、その情報の信頼性は高い。それら国絵図には多くの火山に噴煙が描かれている（及川，2008：本セッション）。その情報を基にトカラ列島の噴煙史を編んだ。使用した国絵図は国立公文書館蔵の幕府に提出された元禄国絵図「薩摩国」「大隈国」（1702年成立）、天保国絵図「薩摩国」「大隈国」（1838年成立）である。元禄・天保国絵図には横当島、諏訪ノ瀬島、中之島、口之島、小臥蛇島、薩摩硫黄島の各火山に噴煙が描かれている。口永良部島は元禄国絵図にのみ噴煙が描かれている。これらのうち、横当島、小臥蛇島は活火山と認定されていない。横当島には新鮮な火山地形が存在するが、現在噴気活動はない。小臥蛇島は新鮮な火山地形は認められないが、現在も弱い噴気活動が認められる（中野・下司，2007）。このように、現在顕著な火山活動が認められない火山についても噴煙が描かれていることから、両国絵図が描かれた当時、トカラ列島の噴煙活動は現在よりも活発であったと考えられる。また、中之島、口之島、薩摩硫黄島には江戸期の噴火記録は残されていない。さらに、横当島は新鮮な火山地形をもつことから最近の歴史時代に噴火した可能性がある。これらの火山の活動史についても再調査が必要である。

その一方、トカラ列島の火山と同じく元禄・天保国絵図「大隈国」に描かれている桜島には噴煙が描かれていない。また、現在、噴煙活動の活発でない霧島では、元禄・天保国絵図「日向国」に噴煙が描かれている。そのため、この時代の桜島は現在のように盛大に噴煙をあげておらず、霧島の噴煙活動が活発であったと考えられる。

[文献] 中野・下司 (2006) 日本火山学会講演予稿集, 2006, 15-15.